

平成30年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

環境配慮型の森林づくりを実践する日本有数の林業家

○氏名又は名称 速水 亨・速水 紫乃

○所在地 三重県北牟婁郡紀北町

○出品財 経営（林業）

○受賞理由

・地域の概要

紀北町は、三重県南部の海沿いの町である。西北部一帯は日本有数の原生林が残る大台山系に連なる急峻な山々に囲まれ、平地は極めて少ない。年間降水量約4,000mmという日本でも有数の多雨気候の中にあつて、地域林業は、密植、除間伐、枝打の繰り返しによる良質芯持ち柱材の生産を特徴としている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

速水氏は、速水林業の9代目代表であり、自己所有山林に経営を受託する森林を加え、1,189.3haを対象に森林経営計画を樹立し、地域ブランドである高品質の「尾鷲ヒノキ」材を生産している。

・受賞者の特色

(1) 日本で初めてのFSC認証取得

速水林業は持続可能な森林経営の確立を目標としているが、その内容は、生物の多様性を創出・維持しつつ人工林を育成するというものである。

平成12年には、環境配慮型林業の国際的基準を持つFSC認証を日本で最初に取り得し、その後の国内における森林認証の普及に大きく貢献している。

(2) 高性能林業機械の導入による生産性の向上

環境配慮型森林経営の持続には、林業生産において、ヨーロッパレベルの機械化が不可欠であると考え、平成2年に高性能林業機械であるタワーヤーダを日本で初めて導入した。その後も、他の林業機械との組み合わせによる搬出システムを独自に開発するなど、間伐、皆伐の生産性向上を実現した。

(3) 育林の低コスト化

木材生産経費の7割を占める初期コストの低減を目的に、ポット苗生産技術の確立や選抜育種による大型苗の確保・植栽と、下刈り回数の減少等に取り組み、30年生までのha当たり育林労働投下を、それまでの400人工（作業に要する延べ人数）以上から、90人工台まで大きく引き下げることに成功している。

・普及性と今後の発展方向

速水氏は、作業の効率化やコスト削減、市場開拓等の経済性を追求するとともに、その成果を多方面に普及啓発する活動を行ってきた日本有数の林業家である。

氏の環境配慮型森林経営は、森林所有者による経営の持続を可能にするとともに、林業が産業として自立することを目指したものであり、その追求は今後も継続されると考えられる。